

「台地ヒエラルキー」が形成する都市景観に関する論考
ー港区六本木地区を事例としてー

宇野研究室 4105069 行木 慎一郎

1.研究背景と目的

東京都心部の地域は洪積大地に数多くの谷が形成した地形となっている。江戸時代では台地上の高燥な地域に武家屋敷が多く、底部が町人地になっていた。本研究ではそのような土地とそこに立つ建築用途の関係を「台地ヒエラルキー」と呼ぶこととする。港区ではそのような空間構成を下敷きとし、現在まで多くの再開発が行われてきた。

本研究の目的は「台地ヒエラルキー」が現在の東京でも存在しているかを調査し、それによってどういった都市景観が形成されているかを調査するものである。

2.研究対象

地形形状に特徴があり、歴史をもつ町である港区麻布地区を対象とする。また、この地域におけるランドマーク^{註2)}と考えられる六本木ヒルズを中心とした景観について調査する。

3.研究方法

3-1.地図分析(図2)

1)幕末(1868年)、明治(1909年)、昭和初期(1937年)、昭和中期(1955年)と年代を追って主要施設(公用地、個人邸宅等)をプロットし、その変遷と立地に着目する。^{註3)}

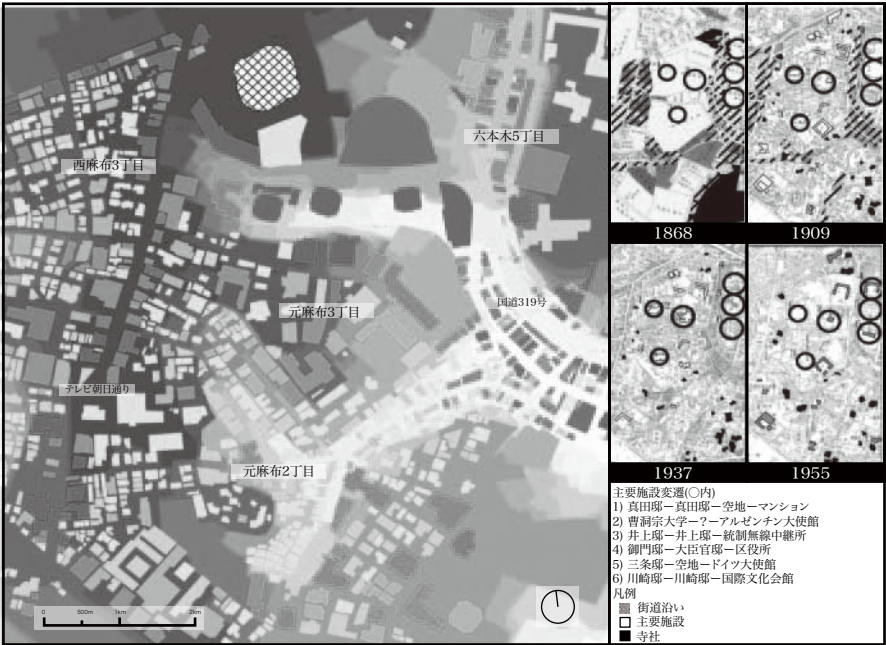
2)現在の地形^{註4)}と建築物の規模^{註5)}の関係を観察する。

2-2.景観分析

六本木ヒルズを中心とした100mおきの同心円のうち、距離300～800mの円と道路の交差したポイント(65箇所)を撮影地点とし、GL+1500mmから仰角12°で六本木ヒルズにカメラ^{註6)}を向けた写真を撮影する。次にその写真をスクリーニングし、景観の特徴と撮影地点の関係を洗い出す。(図4)



▲図1 対象地域



▲図2 地図分析による台地ヒエラルキーの観察

4.台地ヒエラルキーの存在

4-1.年代別変遷

1868年)高燥地に毛利、内田らの武家地が広く構える。寺社は南東の善福寺を始め、道路沿いから傾斜地に向かって分布している。また、海拔12m^{註7)}付近、30m付近を走る2つの街道沿いに町人地が帯状に連なっている。1909年)幕末時の骨組みはそのままに、元が武家地であった敷地割りに沿って学校、個人邸宅等が見受けられ、町人地と比較すると密集の度合いに開きがある。1937年)寺社や個人邸宅の分布にはあまり変化がない。空地が目立った元武家地に少しずつ住宅等の小さなボリュームが広がっている。1958年)戦災の影響から町人地のベルトに少し欠けが見られるが、現在の元麻布二丁目の窪地の低層の住宅地の広がり方が顕著である。寺社の分布はそのままである。以前の邸宅は大使館や政府の施設に姿を変えている。

4-2.地形と建物規模の現況

元麻布2丁目)南北の丘に挟まれ、最も低い12m地点から20mの台地上の一丁目方面への坂沿いには中層のマンションが集中し、南西の12～16m程の低地には幅員2m程の低層密集地がある。元麻布3丁目)2丁目の窪地側の傾斜地には中層のマンションが、30mの台地上には高層マンションまたは中国大使館を始めとする大使館が点在する。六本木ヒルズ周辺)レジデンス郡は11m付近から広がるが六本木ヒルズは30m地点の台地上に位置している。西麻布3丁目)町人地のベルト側に高層のビルが並び、そこから西の谷地に向かう緩やかな傾斜地に住宅地が広がっている。

5.台地ヒエラルキーによる景観

5-1.スクリーニング

建物が層状に連なる景観が見られるかという観点から、65枚の写真を以下の3つのグループに分類する。

- a)撮影点から六本木ヒルズまでの間に複数の建物の層が見られるもの。
- b)撮影点から六本木ヒルズまでの間に一層しか建物の層が見られないもの。
- c)撮影点から六本木が見えないもの。

5-2.各グループの分布(図3、図5)

a,b,c各グループ以下のような地域的な偏りが見られる。

a)このグループについては景観に特徴が見られたため、重点的に観察する。そのためにこのグループの集中した3つの地域を地域(甲)(乙)(丙)と分類する。

(甲)西麻布三丁目(街路が六本木ヒルズへ向かう地点)の住宅地、テレビ朝日通り沿い(30m)。

(乙)元麻布二丁目の窪地の低層密集(12m)及びそこから南に位置する元麻布一丁目の高台(24m)。

(丙)国道319号沿い(8～10m)、麻布十番西側の六本木ヒルズ方向へ向かう道路。

b)同一高さの地盤上で六本木ヒルズから見て遠い側、元麻布一丁目周辺の中高層新築マンション街に集中。撮影地点の街路が六本木ヒルズに対して直角に流れているもののうち、グループaに含まれないものが多い。

c)元麻布二丁目から三丁目の高台へ上る18～20m地点、中層密集地である麻布十番の南東側に集中。道路幅員が狭く、中高層の建築物に挟まれる場所が多い。

5-3. 景観特徴(図3、図5、表1)

3つの地域それぞれの写真の特徴に共通点があり、特に写真に写り込む建物の、撮影点と六本木ヒルズの間での分布に特徴があった。

甲) 近景、中景、遠景^{註8)}がまんべんなく写り込んだ写真が多く見られた。これは、六本木ヒルズに向けて緩やかな上り坂であることと、それに伴い建物も住宅・商業用ビル・六本木ヒルズ関連再開発とボリュームが大きくなっていることに起因する。また、六本木ヒルズが写真に占める割合に大きなばらつきがあることも特徴である。

乙) 近景、遠景のみまたは中景、遠景のみが見られた。前者は撮影地点が窪地であり、周囲が低層密集地であるため中景が見えない。後者は撮影地点が斜面地で近景が窪地に位置する低層密集地であるためまったく写り込まず、台地上の大きなボリュームが中景として写り込む。

丙) 近景と遠景が写り込むことが多い。道路幅の広い、カメラの向きと平行に伸び道路路上に撮影地点があるため、近景の多くの建物が六本木ヒルズに向けてパースを効かせながら連続的に写り込む。

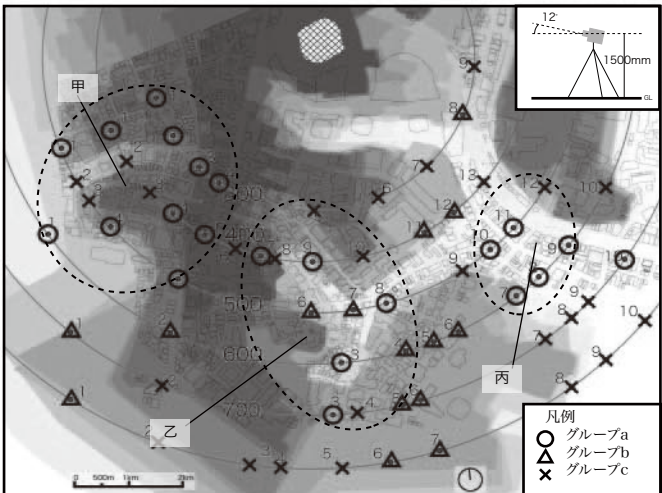
5-4.六本木ヒルズ可視率^{註9)}(図4、表1)

各写真の中で六本木ヒルズが写り込んでいる面積割合を観察することで、各地点の見通しを評価する。数値の高い地点がテレビ朝日通りを中心に22～30m程の台地に多く分布しており図3の等高線と類似した概形が確認されるが、所々低い数値を示す地点が割り込んでいる。全体的に台地もしくは六本木ヒルズから近い地点で可視率は高くなるが例外的に地域(丙)は安定して高い割合で六本木ヒルズが写り込んでおり、これは道路から受ける影響が大きい。

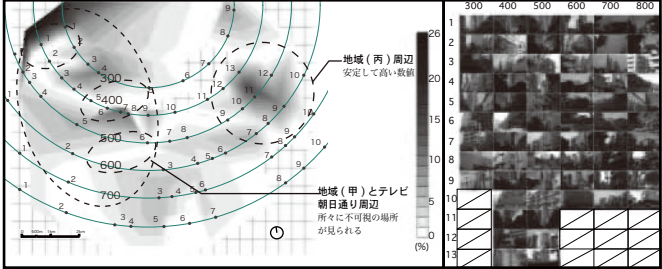
6.結果

- ・対象地域において現在も江戸時代に出来上がった台地ヒエラルキーの存在が現在も確認された。
- ・六本木ヒルズが「台地ヒエラルキー」に沿った建ち方をしているため、見通しの利きやすい層状景観が対象地域に形成されている。
- ・地域により、景観全体を形成する近景、中景、遠景の見え方に違いが出る。
- ・対象地域を移動しているとランドマークである六本木ヒルズの可視、不可視を連続的に体験することとなる。

以上のように、現在の景観構成には江戸時代からの「台地ヒエラルキー」が下敷きになっていることがわかった。今後の再開発においてもそれにのっとった開発が行われることが望ましい。

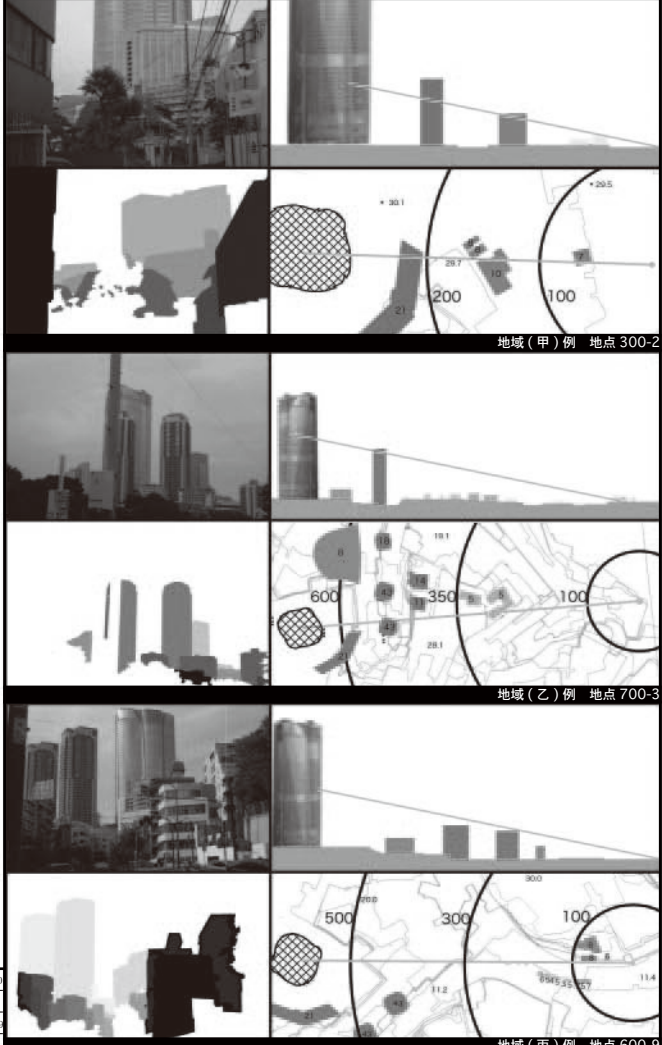


▲図3 撮影地点及びグループ分布



▲図4 六本木ヒルズ可視率分布

▲図5 写真一覧



▲図5 データシート例

脚注:1)江戸時代では台地上の高燥な地域に武家屋敷、低地に町人地があった。武家屋敷の跡地に、広い敷地を必要とする公的な機関や資本を有する民間の建築物が建てられる場合が多かったことから、敷地の高低が建物の大小に比例するような都市空間が形成された。このことを「台地ヒエラルキー」と定義する。2)ランドマークを、場所の都市の景観を特徴づける要素であり、場所の認知性と地域のアイデンティティを高める効果のあるもの(既往研究1より)と定義したとき、六本木ヒルズは延床面積380,105m²、高さ238.06mという建物規模とその知名度から、ランドマークであるとして適当である。3)東京都港区近代沿革図集麻布・六本木 港区立三田図書館編参照。4)ゼンリン住宅地図プリントサービス参照。5)数値地図2500 国土地理院刊行参照。6)撮影機材はニコン社D-100(画素数3008×2000pixel、焦点距離30mm)を使用。7)これ以後の文中においてm表記は全て海拔のことを指す。8)文中写真に写り込む撮影地点の周囲の建物のことを近景、六本木ヒルズ周辺の建物を遠景、その間の建物を中景と呼ぶ。9)写真全体を100としたときの六本木ヒルズの面積割合をいう。参考文献:1)見えがくくする都市 横文彦他著鹿島出版会 2)景観の構造 樋口忠彦著技報堂出版 3)風景学入門 中村良夫著中公新書

既往研究:1)都市中心地区ランドマークの可視性に関する研究 小林 隆史 大澤 義明

▼表1 データシート数値化結果

地点	300-1	300-2	300-3	300-4	400-1	400-4	400-5	400-7	400-9	500-1	500-4	500-5	500-8	500-9	500-11	500-12	600-3	600-7	600-8	600-9	700-3	700-10
建物階層	13	9	4	10	4	10	14	6	10	4	9	8	21	5	8	13	6	8	10	9	10	21
距離範囲(m)	4~5	3~4	5~6	9~10	5~6	4~5	8~9	3~4	3~4	5~6	4~5	9~10	4~5	4~5	9~10	7~8	3~4	18~19	18~19	7~8	3~4	18~19
可視率(%)	19.3	8.5	5.4	6.9	5.4	20.7	10.3	13.2	4.51	9.1	12.9	5.6	3.4	3.5	5.6	13.2	4.83	14.1	3.88	4.86	4.51	3.4
平均可視率	7.92	6.67	7.5	6.9	7.5	4.5	6.78	6.16	17.3	15.75	5	8.5	14.31	18.4	8.5	10	6.16	16.37	15.5	12.77	17.3	14.31